

2017年9月12日

ジャカルタ ジャパン クラブ
会員各位

ジャカルタ ジャパン クラブ
海外邦人安全対策連絡協議会

1 最近の政治・治安情勢

最近1か月の間に、目立ったテロ事件は発生していない。他方で、ミャンマーのロヒンギャ問題に対する抗議デモが複数件あり、メンテンにあるミャンマー大使館周辺やHIロータリーが通行止めになった。その他、ボロブドゥールやメダンなどの地方各地でロヒンギャ問題関連のデモ・募金・集会等が報告されている。現時点では、イスラム教徒対仏教徒の対立等の大きな事態には発展していないものの、引き続き注意が必要である。

2 邦人に関わる最近の事件・事故報告

(1) 強盗事件

今般、路上や歩道橋で邦人男性がズボンのポケットから財布やパスポートを盗まれる事件が複数件発生している。当地強盗グループの間では、邦人男性はズボンのポケットに財布を入れていることが知られているようであり、強盗の標的になる可能性が高いため特に注意していただきたい。また、メトロミニやコパジャ等のローカルバスでは、日常的に強盗や窃盗事件が発生している。当地警察官は、強盗事件等が発生した場合、抵抗する犯人はその場で射殺されることがあるため、メトロミニ等のバスには乗らないだけでなく、何か事件が発生した場合、速やかに現場から離れるよう徹底していただきたい。

(2) ブカシ地区の治安

今般、ブカシ地区では、車のタイヤをパンクさせて、車両が停車している間に鞆などを強奪するパンク強盗が多発し、邦人も被害に遭っている。ブカシ地区は治安が悪化しており、建物に侵入する強盗の件数も増加しているため、訪問する際は注意が必要である。

(3) 車両を用いたテロ

ヨーロッパで発生した歩行者を対象にした、車両を用いたテロにも十分注意する必要がある。毎週日曜に開催されるカーフリーデーや、カーフリーデーの際に行われるイベント等へ参加される邦人も多いが、周囲の状況には十分注意していただきたい。

3 報告及び連絡

(1) 大規模デモ

領事メールで注意喚起しているとおり、過去1か月の間に、独立記念日（8月17日）、犠牲祭（9月1—4日）、FPIの犠牲祭前夜パレード（8月31日）、ロヒンギャ問題への抗議デモ（9月6日）、同問題へのボロブドゥールでの抗議集会（9月8日）等のデモがあった。このうち、邦人が巻き込まれた事故や事件の報告はない。

(2) VOA（到着ビザ）関係のトラブル

8月9日、スカルノハッタ空港を往訪し、入国管理所長、入国管理部長、空港施設課長に対して、これまでのVOA関係トラブルについての事実確認及び再発防止の申し入れを行った。事実確認に対して先方はこれを否定せず、お詫びと再発防止を約束した。さらに、当館領事部と空港事務所関係者の間で携帯番号を交換し、連絡体制を構築した。また、同空港において、以前はVOAと査証免除の際の入国手続きは同じレーンで行われていたが、現在ではレーンが分離化され、VOAによる入国はVOA支払いカウンターの隣のブースで入国手続きが可能になった。レーン

分離化後、邦人からは未遂の報告（査証押印ミス）が1件あったが、その他の報告はない。類似例があった場合、当局に再度申し入れるのでご連絡いただきたい。

4 各社からの報告（団体）からの報告

（質問）

スカルノハッタ空港管理会社より、同空港第1，第2ターミナルのポーターサービスを無料化する旨発表されたが、何か関連情報はるか。

⇒9月3日にスカルノハッタ空港から入国した際、以前にいたピンク色の制服を着たポーターはもうおらず、水色で背中に「NO TIPPING」と印字された制服を着たポーターのみになっていた。チップは受け取らないのか確認したところ、不要だと言っていた。

（質問）

大使館領事部とスカルノハッタ空港事務所とのホットラインは、どのような現場対応を可能にするのか。

⇒連絡体制の構築ではあるが、問題が起こった現場への駆けつけは困難であるが、当館代表電話にご連絡をいただければ、これまでどおり24時間、邦人援護を行う。

○8月23日、当校は70名の転入生と共に新学期を迎えた。

○8月29日、不審者対応避難訓練を実施した。小学部運動場の壁を乗り越えて侵入した不審者を想定し、大使館、警備会社と共に避難訓練を実施した。今後も引き続き、休み時間や複数名の不審者を想定した訓練を実施する予定である。

○9月5日、緊急連絡配信・伝達訓練を実施した。

学校からの緊急連絡は電話連絡を基本としている。これまでの補助手段であった携帯電話のショートメッセージから、スタディーサプリ連絡帳というスマートフォンのアプリに変更したところ、便利であるとして保護者からも好評であった。

○9月23日実施予定の体育祭には、2千名以上の保護者が来場する予定である。地元警察や警備会社の警備員を増員する予定である。また、敷地内の禁酒と分煙も徹底する。

○警察・入管による日本語パートナーズへの査察

8月に、日本語パートナーズの住居及び派遣先の学校への警察及び入管による査察があった。パートナーズ複数名が入居するボゴールのアパートメントにおいて、夜9時頃に入国管理局による査察があり、滞在許可等の提示を要求された。ちょうど入国査証から滞在許可への切り替え時期に当たっていたため、旅券の原本は手元になかったものの、国際交流基金の事務所が発行した説明書類及び国家官房発行の身分証明書を提示したところ、特に問題はなかった。また、ジョグジャカルタの派遣先校で警察による査察を受けたケースもあったが、同様に対応したところ、問題はなかった。

○国際交流基金の名前を語った詐欺

今年3月頃以降、国際交流基金の名前を語って集金を行う詐欺が発生している。7月にTimes Indonesia紙に、国際交流基金が学校のリノベーションのために15億ルピアを支援するという内容の記事が掲載された。これを目当てにした学校関係者のセミナーへの参加を呼びかけ、セミナー参加費として50万～200万ルピアを集金するという手口であった。国際交流基金は訂正記事を出す等の対応を取っているが、いちごっこ状態である。

このような詐欺は、SNS等で情報が広まりやすい都市部ではなく、インターネットがそれほど普及していない地方の教育関係者を標的にすることが多いようである。

次回の邦人安全対策連絡協議会は10月10日（火）午前11時から